

第2回(平成22年度 第2回)  
東庄町障害者地域自立支援協議会 就労検討会 結果概要

日時:平成22年9月28日(火)14:00~16:00

場所:オーシャンプラザ ホームヘルパー研修室

会議進行:高木係長 議事進行:事務局(高木係長・高安)内容説明:高安

1 開 会 高木係長の進行で開会

2 挨拶 健康福祉課 林課長 保立会長

3 議 題 (1) 各検討会結果を基とした全体会議の競技結果報告【資料1】

～平成22年8月30日に開催された全体会議において、開催通知文書と同封をいたしました【各検討会 協議結果概要】に基づき、協議を行った結果報告～

～報告後、前回協議不足であった福祉的就労について、東総就業・生活支援センター辻内さんより、山武・東総圏域の状況を伺い参加委員にて意見交換を行った。【以下内容】

【現状】

- 1) 働きたいとの相談から始まっても、生活環境を整えることから始めなければならないことがある。
- 2) 身体障害の方は、就労の相談が少ない。「支援機関」
- 3) 企業側の就労条件が高くなってきているように感じる。

【農業分野】

- 1) 農業分野での就労に関する取組は全国的に着目されている。
- 2) 農業と行政の連携(必要性)
- 3) 農業と福祉を理解している人を中心に取組む必要があるが人材が少ない。(人材育成)
- 4) 事業主の高齢化
- 5) 施設農家でパートを雇っている規模程度でなければ難しい。

【早期療育分野】

- 1) 就労支援も大切であるが、早期療育支援(幼少期から将来の事を見据えた支援)が大切であり、早期に親の考え方をどのように向けていくかが課題。情報を知らない親が多い。
- 2) 精神障害については、幼少期は該当せず、思春期頃から発症するため、中学校の養護教諭の学校関係者への精神障害に対する理解と知識の向上を図る必要がある。  
\* 若年の精神障害者は増加傾向にある。

- 3) 障害を持つ親への理解は進んでいるが、地域の方(親)への障害に対する理解は少なく、周知すべきである。

【企業側からの意見として】

- 1) 「学齢期に普通学校と特別支援学校で分けておきながら、社会に出てから一緒になることは難しい」と言われたことがある。このことに関連して、銚子特別支援学校では、行事等を一緒に行うなどの市内中学校との交流を持っているとの事。
- 2) 当検討会における方向性(テーマ)について  
議題(1)の意見交換の結果を基に、次回、当検討会における方向性(テーマ)について協議を行う事とした。

4 その他

5 閉会